

ターの組織化と現状」で会長の田淵典子(愛媛大学医学部附属病院副院長・看護部長)が行いました。引き続き特別講演は演題名「これからの看護のあり方」を坂本すが先生(公益社団法人日本看護協会会長)に講演していただきました。支部総会の後ランチョンセミナー演題名「音楽による癒しのちから～音楽療法ってなあに～」を稲浦 調先生(日本音楽療法学会四国支部事務局長)に講演していただき、BGMの元で昼食を頂きました。

午後は一般演題(口演)39題で2会場に分かれて、活発な討論がされました。最後に学術集会会長の挨拶で第4回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を終えました。

参加者は、179名でした。演題数、参加者数とも次第に増えてきており、日本医療マネジメント学会愛媛県支部の活性化が進んでいます。

第13回福井県支部学術集会

学術集会会長：福井厚生病院院長 羽場利博



会場風景

2014年1月18日(土)、福井県支部学術集会が開かれました。『がん治療と多職種の関わり』をメインテーマに一般演題、シンポジウム、特別講演とプログラムが流れ

ていきました。参加者数は114名、テーマが「がん」と「チーム」ということもあり各医療職の参加はもちろん、地域医療計画などに関係する県庁職員の参加もありました。

一般演題・シンポジウムでは各医療機関の取り組みと活動、実績の紹介がありました。現状・実態から抽出された課題に対して、がんという特性から時にはナイーブな問題があり、会場は真摯な空気にも包まれていました。がん研有明病院 畠先生による特別講演では独特の“畠節”により開演当初、会場は大いに沸きました。かなりリラックスした状態でその後の講演を聞くことが出来たと思います。治療成績の向上の歴史に始まり、十分な治療量・治療期間とは、どういった治療が患者さんにとってより良いのか、標準治療とは、副作用管理とは、治療成績の向上はどうしたらできるか、今後の多職種による医療について大きな学び・収穫の多い講演でした。

本学術集会の開催にあたり、ご協力・ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます、開催の報告と致します。

講習会等開催案内

2014年度第1回クリティカルパス実践セミナー in 鹿児島 テーマ：～電子カルテとDPC時代のクリティカルパスの見直し～

電子カルテの普及とDPCの時代になりクリティカルパスの見直し方法も変化しつつあります。今回のセミナーでは、DPC分析ツールを用いたクリティカルパスの見直しと電子化クリティカルパスのバリエーション分析を通して電子カルテとDPC時代におけるクリティカルパスの見直しを習得することを目的としています。奮ってご参加下さい。

実務研修の為に定員が限られていますので、お早めにお申込み下さいますようお願いいたします。

・日時 2014年5月10日(土)12:30～5月11日(日)14:30
・場所 国立病院機構鹿児島医療センター 2階 大会議室
(〒892-0853 鹿児島市城山町8-1)

・プログラム

第1日目 5月10日(土)

12:30 受付開始

13:00 開会

日本医療マネジメント学会理事長 宮崎久義

13:10 講演Ⅰ

「クリティカルパスの基本」

医療法人朝日野会朝日野総合病院病院長 野村一俊

13:30 グループワークⅠ：DPC分析ツールを用いたクリティカルパスの見直し

国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川哲志

15:50 休憩

16:00 グループワーク発表・討議

17:10 講演Ⅱ

「電子化クリティカルパス～クリティカルパスカンファによる推進～」

国立病院機構鹿児島医療センター耳鼻いんこう科部長

松崎 勉

17:30 第1日目日程 終了(予定)

第2日目 5月11日(日)

8:50 集合

9:00 グループワークⅡ：電子化クリティカルパスのバリエーション分析

福井総合病院副院長 勝尾信一

12:00 昼食

13:00 グループワーク発表・討議

14:00 講演Ⅲ

「クリティカルパス、過去、現在、未来」

国際医療福祉大学大学院医療経営管理学分野教授

武藤正樹

14:30 閉会